

パブリックコメントで寄せられた意見の概要と回答

| | |
|----------|----|
| ○審査区分表関連 | 1 |
| ○審査方式関連 | 39 |

平成28年12月22日

科学技術・学術審議会学術分科会
科学研究費補助金審査部会

審査区分表に係る意見の概要と回答

1. 「美術史関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分01060「美術史関連」のキーワードに「メディア・アート」「メディア芸術」を。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

2. 「芸術実践論関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| ・身体的実演芸術・芸能の調査・実践的研究を主とする区分が必要。 ・小区分59030「健康教育および健康科学関連」の中に「身体思想、身体知、身体文化、ノン・バーバルコミュニケーション」についてのキーワードを。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 実演や芸能の実践に関する研究は、小区分01070「芸術実践論関連」で、また身体思想等の研究は、中区分1「思想、芸術およびその関連分野」のなかのいずれかの小区分で適切に審査可能と認められます。 |

3. 「日本文学関連」「日本語教育関連」「日本史関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分02010「日本文学関連」、小区分02090「日本語教育関連」、小区分03020「日本史関連」は、より細分化を。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 寄せられた意見は、今回の科研費制度改革の柱である「適切な審査範囲の設定」に合わず、原案のままが適切と認められます。 |

4. 「思想、芸術およびその関連分野」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| (1)中区分1「思想、芸術およびその関連分野」の中に、小区分「文化財保存学」や「文化財修復論」などを。 (2)中区分として哲学と芸術をまとめて扱う際には、芸術作品を研究業績として扱ってほしい。 (3)「日本的身体学」という小区分を追加。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： (1)文化財保存関係は、小区分03060「文化財科学関連」で対応しています。 (2)芸術作品を研究業績として計画調書の業績欄に記載することは特に排除されておりません。 (3)「日本的身体学」は、今回の科研費制度改革の柱である「適切な審査範囲の設定」に合わず、原案のままが適切と認められます。 |

5. 「地域研究関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分80010「地域研究関連」のキーワードは、「地域研究一般、地域間比較、援助、社会開発、環境、エスニシティ、トランスナショナルリズム、グローバリゼーション」など。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する 〔 小区分80010「地域研究関連」の内容の例に「社会開発」を追加することとします。 〕 |
| 説明： 小区分80010「地域研究関連」の内容の例として「社会開発」を追加することにより、内容の例に新たな要素が加わり当該区分の審査対象領域をより広く示すことができると認められます。 |

6. 「地域研究関連」「ジェンダー関連」「観光学関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| ・中区分2「文学、言語学およびその関連分野」、中区分3「歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野」にも、小区分80010「地域研究関連」、小区分80030「ジェンダー関連」を。 ・中区分8「社会学およびその関連分野」にも小区分80010「地域研究関連」を。 ・地域研究、観光学を独立した中区分に。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 原案の中区分の構成で、応募者は適切に審査区分を選択できますので、原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

7. 「ジェンダー関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分80030「ジェンダー関連」のキーワードに、「開発・援助」「トランスナショナリズム」「グローバルイゼーション」を入れてほしい。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 提案されている内容の例は抽象的で極めて多くの分野の研究に関わるものであり、内容の具体例としては適さず、原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

8. 「スポーツ科学関連」「ジェンダー関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分80030「ジェンダー関連」のキーワードに「スポーツ」を加えるべき。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 小区分80030「ジェンダー関連」または小区分59020「スポーツ科学関連」で適切に審査可能と認められます。 |

9. 「政治学関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分06010「政治学関連」を、「政治理論関連」「政治分析関連」「行政学関連」の3区分に。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 寄せられた意見は、今回の科研費制度改革の柱である「適切な審査範囲の設定」に合わず、原案のままが適切と認められます。 |

10. 「経済学」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 「マーケティングリサーチ」、「ソシオメトリクス」、「サイコメトリクス」、「医療統計」、「テスト理論」などのキーワードを。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 原案の内容の例で適切に審査可能と認められます。 |

11. 「計量経済学」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 「計量経済学」を小区分として独立。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 小区分07030「経済統計関連」に内容の例「計量経済学」が含まれていますので、原案のまま で適切に審査可能と認められます。 |

12. 「経済政策関連」「地域研究関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| ・小区分070040「経済政策関連」のキーワードに「経済事情」「地域経済」を。 ・中区分7「経済学、経営学およびその関連分野」の中にも「地域研究関連」を。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する 〔小区分07040「経済政策関連」の内容の例「リージョナルサイエンス」を「地域経済」に変更することとします。〕 |
| 説明： ・小区分07040「経済政策関連」の内容の例に「地域経済」を加えることで、当該区分の対象領域をより広く適切に表現できると認められます。一方、中区分7「経済学、経営学およびその関連分野」に「地域研究関連」を小区分として新設する必要性は認められません。 ・原案の「リージョナルサイエンス」という内容の例は、よりわかりやすくするために「地域経済」に変更することとします。 |

13. 「国際開発」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| ・教育社会学に「国際開発」のキーワードは不適切。国際開発学を小区分に。 ・小区分07040「経済政策関連」、小区分06020「国際関係論関連」に「国際開発」というキーワードを。 ・経済学や社会学にも、「地域研究」を対象とした小区分を設け、「国際開発」「国際協力・援助」「持続可能な開発」などのキーワードを。 ・「国際開発研究」に配慮を。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する 〔小区分07040「経済政策関連」の内容の例に「国際開発」を追加することとします。〕 |
| 説明： 小区分07040「経済政策関連」の内容の例に「国際開発」を追加することで、当該区分の対象領域をより広く適切に表現できると認められます。一方、それ以外の内容の例の追加、および「国際開発」に関係する小区分を新設する意見については、原案のままで適切に審査可能と認められます。 |

14. 「国際開発」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>「国際開発学」という中区分を立てる。「国際開発・持続可能な開発」という中区分。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 中区分を新設するほどの応募の現状と広がりはともに認められません。</p> |

15. 「経済学関連」「経営学関連」「商学関連」「経済政策関連」「観光学関連」「交通経済学」「ロジスティクス」「国際開発」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交通・物流(ロジスティクス)」の位置づけ、「交通経済学」をどこかに。 ・小区分07040「経済政策関連」のキーワードに「交通経済学」、小区分07080「経営学関連」のキーワードに「サプライチェーンマネジメント」、小区分07090「商学関連」のキーワードに「物流(ロジスティクス)」、小区分80020「観光学関連」のキーワードに「観光交通、産業観光」を。 ・小区分07040「経済政策関連」と小区分07090「商学関連」のそれぞれのキーワードに「ロジスティクス」を。 ・「交通経済学」「ロジスティクス」をキーワードに。 ・経済政策分野のキーワードとして「交通経済学」を、商学分野のキーワードとして「ロジスティクス」を。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>（小区分07040「経済政策関連」の内容の例に「交通経済学」と「開発経済学」を追加することとします。 小区分07090「商学関連」の内容の例に「ロジスティクス」を追加することとします。）</p> <p>説明： ・指摘のあった「交通経済学」および「開発経済学」は、内容の説明を充実させ、当該区分をより広がりのある領域として示すことができると認められるので、小区分07040「経済政策関連」の内容の例に追加することとします。 ・指摘のあった「ロジスティクス」は、現代的な内容として当該区分をより広がりのある領域として示すことができると認められるので、小区分07090「商学関連」の内容の例に追加することとします。</p> |

16. 「財政および公共経済関連」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分07050「財政および公共経済学関連」の小区分の説明を「応用経済関連」あるいは「公共経済学および労働経済関連」という名称に。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を採用して修正する</p> <p>（小区分07050「財政および公共経済関連」の小区分の説明を「公共経済および労働経済関連」に変更することとします。）</p> <p>説明： 意見は、原案の小区分の説明では、この小区分が労働経済学などの応用経済学関連の広範な研究を含むことが分かり難いとの指摘です。意見を踏まえ、小区分の説明に「労働経済」を明示することとします。</p> |

17. 「公法学関連」「民事法学関連」「金融およびファイナンス関連」「商学関連」「安全工学関連」「保険法」「保険論」「保険」「リスクマネジメント」「年金保険論」「年金論」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小区分07060「金融およびファイナンス関連」のキーワードに「保険リスク理論」「保険リスクマネジメント」を。 ・小区分05060「民事法学関連」、小区分07060「金融およびファイナンス関連」、小区分07090「商学関連」のキーワードに「保険」および「保険論」を。 ・「年金論」、「年金保険論」をキーワードに。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>〔 小区分07060「金融およびファイナンス関連」の内容の例に「保険論」を追加することとします。 〕</p> <p>説明： 審査区分は内容の例に「、など」と記載している通り、それらに縛られることなくより広がりのある自由度を有しています。「保険リスク理論」、「保険リスクマネジメント」、「保険」、「保険論」を関連する小区分に追加をとの意見につきましても、小区分07060「金融およびファイナンス関連」の内容の例に追加することによって、当該区分をよりわかりやすく広がりのある領域として示すことができると認められます。他の関連の小区分を含めそれ以外の指摘のあった内容の例の追加については、前述の内容の例の追加上の必要性は認められません。</p> |

18. 「消費者教育」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分「消費者教育関連」を、中区分7と中区分9のなかに設置。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 小区分「消費者教育関連」の構成を必要とするほどの応募件数および内容の広がりが認められません。</p> |

19. 「社会学関連」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> (1)小区分08010「社会学関連」のキーワードに「医療社会学」を追加。 (2)小区分08010「社会学関連」のキーワード「福祉社会学」を「福祉保健医療」に。 (3)小区分58010「医療管理学および医療系社会学関連」のキーワードの「医学倫理」を「医療倫理」ないし「生命倫理」に。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>〔 小区分08010「社会学関連」の内容の例に「医療社会学」を追加することとします。 小区分58010「医療管理学および医療系社会学関連」の内容の例に「医療倫理」を追加することとします。 〕</p> <p>説明： (1)小区分08010「社会学関連」の内容の例に指摘のあった「医療社会学」を追加することによって、当該区分をより広がりのある領域として示すことができると認められます。 (2)小区分08010「社会学関連」の内容の例として原案の「福祉社会学」は妥当と認められます。 (3)小区分58010「医療管理学および医療系社会学関連」の内容の例に指摘のあった「医療倫理」を追加することによって、当該区分をより広がりのある領域として示すことができると認められます。</p> |

20. 「人口学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| ・「人口学」を独立した小区分に。 ・「人口学」という分野を。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する 〔 小区分08010「社会学関連」の内容の例に「社会人口学」を追加することとします。 〕 |
| 説明： 指摘のあった「人口学」は小区分の新設を必要とするほどの応募件数と内容の広がりはともに認められません。「人口学」関連では、小区分07030「経済統計関連」に「人口統計」等が内容の例として採用されています。これに加えて、小区分08010「社会学関連」の内容の例に「社会人口学」を追加することで、当該領域に係る応募者への新たな情報となることが期待されます。 |

21. 「保健社会学」「健康社会学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分として「保健社会学」ないし「保健・医療・福祉社会学」を。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった「保健社会学」および「保健・医療・福祉社会学」は、いずれも新設を必要とするほどの内容の広がり認められません。原案のままで適切に審査可能と認められます。 |

22. 「社会福祉学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| (1)小区分08020「社会福祉学関連」のキーワード「ソーシャルワーク」を削除。 (2)中区分「社会技術の関連分野」を設け、小区分として「社会技術」(社会計画、コミュニティ開発、社会イノベーション、社会デザイン、ソーシャルワーク)を。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： (1)小区分08020「社会福祉学関連」のキーワード「ソーシャルワーク」を削除する必要性は認められません。 (2)指摘のあった「社会技術の関連分野」を中区分として新設するほどの内容の広がり認められません。 以上、指摘のあった点については、原案のままで適切に審査可能と認められます。 |

23. 「生活文化関連」「家政学」「食生活学」「食物学・調理学」「生活科学」に関して

<意見の概要>

(1) 小区分の名称、さらなる分割など

- ・小区分08030「生活文化関連」の名称を「家政学(生活科学)関連」に。
- ・小区分08030「生活文化関連」を「家政・生活学一般」とする。ほかに「衣・住生活学」「食生活A」「食生活B」の小区分を設ける。
- ・小区分08030「生活文化関連」に「衣・住生活学」「食生活(食品と調理関連)」「食生活(統合栄養科学関連)」「食生活(食生活と健康関連)」を追加。

(2) 小区分08030「生活文化関連」のキーワードについて

- ・キーワードに「食生活」「調理」を入れる。
- ・キーワードを「家庭経営、家族、ライフスタイル、衣生活、食生活、住生活、消費科学、生活文化、家政学一般」とする。

(3) 中区分における場所

- ・小区分「家政学関連」を、中区分9「教育学およびその関連分野」、中区分38「農芸化学およびその関連分野」、中区分59「健康科学およびその関連分野」の中に追加して入れる。
- ・さらに、中区分26「材料工学およびその関連分野」、中区分27「化学工学およびその関連分野」にも。

(4) 中区分として独立

- ・中区分として「家政学(生活科学)」を立て、小区分として「家政・生活学一般」「衣・住生活学」「食生活(食品と調理関連)」「食生活(統合栄養科学関連)」「食生活(食生活と健康関連)」を。
- ・中区分として「家政学(生活科学)およびその関連分野」を立てる。その際、小区分(それぞれのキーワードつき)には、「家政学原論関連」(学説、思想、研究方法、国際家政学、家政学史)、「家庭経営関連」(生活経営・管理、家庭経済、生活設計、消費者問題、ジェンダー)、「家族関連」(家族理論、家族関係、家族と地域・社会、高齢者、家族と国際化)、「児童関連」(児童発達、育児・保育、家庭教育、児童文化、児童福祉、児童臨床)、「食物関連」(食生活、栄養、食品、調理・加工、食品衛生、食文化・食生活史食育)、「被服関連」(衣生活、被服材料、被服整理・染色、被服構成、被服衛生・生理、被服心理、色彩・意匠、服飾文化・服飾史)、「住居関連」(住生活、住居史、住居・住環境計画・デザイン、住居環境・設備、住宅構造・材料・防災、住居管理、住宅問題・政策、住教育)、「家政教育関連」(家庭科教育、家政教育、地域教育、教育実践)。

(5) 中区分を立てるのが難しければ、せめて中区分8の名称を「社会学、家政学(生活科学)およびその関連分野」と。

(6) ・大区分A、C、D、F、IIにも「家政学(生活科学)関連」の小区分を。

- ・大区分Kに入れる方が適切。
- ・複合領域の復活を。

(7) 生活科学を人文系で審査するのは不自然。名称の変更とキーワードの追加。

(8) 人文学に代表されるので、社会科学だけにおくのは無理がある。

(9) 学際的・複合領域的な独立した大区分を設けてそこに家政学を。

<回答>

回答： 意見を踏まえて一部を修正する

- 小区分08030「生活文化関連」の説明を「家政学および生活科学関連」に変更することとします。
- 小区分08030「生活文化関連（「家政学および生活科学関連」に変更）」の内容の例について
 - ・「家政学一般」を追加することとします。
 - ・「家政教育」を追加することとします。
 - ・「生活経営」を「家庭経済」に変更することとします。
 - ・「服飾文化」を「衣生活」に変更することとします。
 - ・「住環境」を「住生活」に変更することとします。
 - ・「食生活」を追加（衣、食、住の順に「生活」を並べる）することとします。
 - ・その前に「衣文化」「住文化」を追加することとします。

説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。また内容の例は、学術分野あるいは領域を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。その上で、以下の様な理由で寄せられた意見に回答します。

・小区分08030「生活文化関連」を中区分、あるいは大区分としての設置をとの意見については、中区分、あるいは大区分として設定することを必要とするほどの内容の広がり認められません。

・本小区分の中区分への位置づけについては、原案のままで適切に審査可能と認められます。

・指摘のあった点は、本小区分をさらに細分化した小区分に分けることを要望するものですが、今回の科研費制度改革の柱である「適切な審査範囲の設定」に合わず、原案のままで適切と認められます。

・小区分の説明に関しては、家政学と生活科学とが区分を共有できるように小区分08030「家政学および生活科学関連」に変更することとします。

・小区分08030「生活文化関連（「家政学および生活科学関連」に変更）」の内容の例に関しては、当該の審査領域をより広がりのある内容として説明できることの観点に立って精査しました。その結果、回答欄に示した通り追加および変更を行うこととします。

24. 「社会学およびその関連分野」に関して

<意見の概要>

- ・中区分8「社会学およびその関連分野」を「社会学、社会福祉学およびその関連分野」に。
- ・中区分8「社会学およびその関連分野」の中に、小区分80010「地域研究関連」を入れる。
- ・この中区分に、小区分08030「生活文化関連」があるのは違和感。

<回答>

回答： 原案のままとする

説明： 指摘のあった点は、いずれも原案のままで適切に審査可能と認められます。

25. 「社会技術」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 中区分「社会技術の関連分野」を設け、小区分として「社会技術」(社会計画、コミュニティ開発、社会イノベーション、社会デザイン、ソーシャルワーク)を。 |
| <回答> |
| 回答: 原案のままとする |
| 説明: 指摘のあった点は、中区分をさらに細分化することを要望するものですが、今回の科研費制度改革の柱である「適切な審査範囲の設定」に合わず、原案のままが適切と認められます。 |

26. 「子ども学および保育学関連」に関して

| |
|---------------------------------------|
| <意見の概要> |
| 小区分として「保育・子育て」を追加。 |
| <回答> |
| 回答: 原案のままとする |
| 説明: 指摘のあった点は、いずれも原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

27. 「教科教育学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 教科教育の小区分の設置を要望。教科教育は各教科において育成すべき汎用的能力と各教科の固有性との関係を追及している分野で応募数も多い。 |
| <回答> |
| 回答: 意見を踏まえて一部を修正する 〔小区分09040「初等中等教育学関連」の説明を「教科教育学および初等中等教育学関連」に変更することとします。〕 |
| 説明: 「教科教育学」については、小区分「初等中等教育学関連」の内容に対応していること、また独立した小区分として新設するほどの内容の広がり認められないことから、原案のままとします。ただし、当該の小区分の説明は内容をよりよく表すために「教科教育学および初等中等教育学関連」に変更することとします。 |

28. 「科学教育」「教科教育学」「理科教育」に関して

<意見の概要>

科学教育と教科教育の2つの小区分の設置を要望。いわゆる「教育学」と「教える内容」は異なること、また、小学生から社会人までのを広くカバーする観点から、これらの2つは初等中等教育と一緒にできない。応募数も多い。

<回答>

回答： 意見を採用して修正する

小区分09080「科学教育関連」を中区分9「教育学およびその関連分野」に追加することとします。

小区分09080「科学教育関連」に内容の例として、以下を加えることとします。
科学教育、科学コミュニケーション、科学リテラシー、科学と社会

説明： 現細目の「教科教育学」(小区分09040「初等中等教育学関連」に対応)の応募内容を精査した結果、文科系科目で学校教育に関するものが中心となっており、理科系科目で、かつ科学コミュニケーション、科学と社会などの学校教育外への広がりをもつ科学教育は独立した小区分とすることが適当であると認められます。

29. 「高等教育学関連」に関して

<意見の概要>

小区分09050「高等教育学関連」のキーワードに「教師教育」を。

<回答>

回答： 原案のままとする

説明： 「教師教育」はとくに高等教育学のみではなく、教育学全般に広く関わるものであると認められます。したがって、特定の小区分に内容の例として入れず、応募する区分を広く選択できるようにします。

30. 「教育学およびその関連分野」「応用情報学およびその関連分野」「教育工学関連」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育工学を教育学だけでなく、情報工学としても位置付けることを要望。中区分62「応用情報学およびその関連分野」にも含めることを求める。 ・教育工学を大区分Jにも位置付けることを要望。(中区分9「教育学およびその関連分野」と中区分62「応用情報学およびその関連分野」に位置付けられるべきとの考えから) ・教育工学を大区分Aの中区分9「教育学およびその関連分野」だけでなく、大区分Jの中区分62「応用情報学およびその関連分野」に位置付けることを要望。 ・小区分09070「教育工学関連」に「情報教育」、「メディア教育」、「遠隔教育」を加えること、およびこの小区分を大区分Jにも加えることを求める。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。また、内容の例は、あくまでも小区分の説明であり、そこに含まれていない内容の応募を排除するものではありません。したがって、原案のまま適切に審査可能と認められます。</p> |

31. 「情報教育」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小区分09070「教育工学関連」に、キーワード「情報教育」、「メディア教育」、「遠隔教育」の追加を希望。その上で、その小区分を中区分62「応用情報学およびその関連分野」にも入れることを希望。 ・小区分「情報学教育関連」の新設、または小区分09070「教育工学関連」を「情報学教育および教育工学関連」に変更を希望。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘のあった点は、いずれも原案のまま適切に審査可能と認められます。</p> |

32. 「刑事法学関連」「社会心理学関連」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> (1)小区分10010「社会心理学関連」のキーワード「態度行動」は「態度と行動」に。 (2)小区分05050「刑事法学関連」のキーワード「法と心理」は小区分05010「基礎法学関連」に移動。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>〔 小区分10010「社会心理学関連」の内容の例「態度行動」は「態度と行動」に変更することとします。 〕</p> <p>説明： (1)内容の例としては指摘のあった「態度と行動」の方が、当該区分をより広がりのある内容として説明できると認められます。 (2)小区分05050「刑事法学関連」の内容の例「法と心理」は、原案のまま適切に審査可能と認められます。</p> |

33. 「応用心理学関連」「人間工学」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 1. 中区分10「心理学およびその関連分野」に、小区分「応用心理学」の追加を要望。 2. 中区分25「社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野」に、小区分「人間工学」の追加を要望。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 中区分10「心理学およびその関連分野」は5つの小区分で、中区分25「社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野」は3つの小区分で各々構成されており、「応用心理学」および「人間工学」は原案のいずれかの小区分で適切に審査可能と認められます。 |

34. 大区分Aに関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 大区分Aが大きすぎるので、分割を。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 大区分は、基盤研究(S)の審査区分に該当します。現在、基盤研究(S)の審査は、人文学と社会科学とをまとめて一つの審査会で適切に審査されています。原案の大区分案は、現状を踏襲したものであり、原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

35. 「数学」「数学基礎および統計関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| ・中区分12「解析学、応用数学およびその関連分野」の小区分、キーワードが現状の数学研究の動向と大きく異なっているので、再検討を希望。 ・小区分12030「数学基礎および統計関連」で、内容的に関連の乏しい「数学基礎論」と「統計数学」を同じ審査委員が審査するときの問題点の解決を希望。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する |
| （小区分12030「数学基礎および統計関連」の説明を「数学基礎関連」に変更することとします。その上で小区分12040「応用数学関連」の内容の例「計算機数学」を小区分12030へ移動することとします。 また、現在小区分12030にある内容の例「ゲーム理論」、「統計数学」を小区分12040「応用数学関連」に移動することとします。 その上で、小区分12040「応用数学関連」の説明を「応用数学および統計数学関連」に変更することとします。 |
| 説明： 関連性の強い内容を同一の小区分に含めることで、応募者の小区分選択が容易になることが期待されます。 |

36. 「数理生物学」「理論生物学」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>数理生物学・理論生物学に関する研究を応募できる小区分がないので、しかるべき小区分の見直しを希望。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘のあった「数理生物学」に関する応募課題は、小区分12040「応用数学および統計数学関連」で適切に審査可能と認められます。また、「理論生物学」に関する応募課題は現在の生物学系(中区分43「分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野」、中区分44「細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野」、など)、あるいは情報系(中区分54「生体情報内科学およびその関連分野」、中区分61「人間情報学およびその関連分野」など)などで適切に審査可能と認められます。</p> |

37. 「解析学、応用数学およびその関連分野」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>中区分12「解析学、応用数学およびその関連分野」を2つの中区分「解析学」と「数理科学」に分けることを希望。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 「数理科学」は、数学、統計学、計算機科学を含む基盤的学問分野であり、中区分11「代数学、幾何学およびその関連分野」ならびに中区分12「解析学、応用数学およびその関連分野」の中の複数の小区分に関連する大きな広がりがあり、原案の審査区分表によって応募者は自由に適切な区分を選択することができます。したがって、原案のまま適切に審査可能と認められます。</p> |

38. 「物性物理およびその関連分野」「素粒子、原子核、宇宙物理およびその関連分野」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>大区分Bに含まれる他の中区分の説明に合わせ、中区分13「物性物理およびその関連分野」、中区分15「素粒子、原子核、宇宙物理およびその関連分野」の説明を見直すべき。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を採用して修正する</p> <p>中区分13の説明「物性物理およびその関連分野」を「物性物理学およびその関連分野」に変更することとします。 中区分15の説明「素粒子、原子核、宇宙物理およびその関連分野」を「素粒子、原子核、宇宙物理学およびその関連分野」に変更することとします。</p> <p>説明： 大区分Bの中での用語の統一を図るべく、指摘の通りに変更することとします。</p> |

39. 「数理解物理および物性基礎関連」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分13010「数理解物理および物性基礎関連」の内容の例「量子情報」を「量子情報理論」としてはどうか。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を採用して修正する</p> <p>説明： 小区分13020「半導体、光物性、原子物理関連」の内容の例に「量子情報」を追加したことに伴い、小区分13010「数理解物理および物性基礎関連」の内容の例をより明確化するために「量子情報」を「量子情報理論」に変更することとします。これにより、それぞれの審査範囲がより明確になるものと期待されます。</p> |

40. 「数理解物理および物性基礎関連」「半導体、光物性および原子物理関連」「原子、分子、量子エレクトロニクス」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の細目表の「原子・分子・量子エレクトロニクス」に入っていた「量子エレクトロニクス」と「量子情報」が別々の小区分に入れられていることは、この分野の世界的傾向に逆行するものである。 ・小区分13020「半導体、光物性および原子物理関連」は物理学会における複数の領域が混在する形になっており、応募課題を審査する審査員のうち半分以上が専門外となって正当な評価がなされない恐れ。 ・量子情報と量子エレクトロニクスは互いに密接に結びついている分野であるにもかかわらず別々の小区分になったことは不適切。 ・量子情報と量子エレクトロニクスが別々の小区分になっていることは当該分野の世界の潮流に反する。 ・小区分13010「数理解物理および物性基礎関連」は理論に偏すると思われ、量子情報の実験が適切に評価されるかどうか懸念される。 ・「原子・分子・量子エレクトロニクス」は従来の細目どおり独立した小区分とすべき。 ・新興分野である「量子情報」の発展を阻害する。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>説明： 当該の小区分13020「半導体、光物性および原子物理関連」の内容の例に「量子情報」を追加することによって、「量子情報」の理論的側面(小区分13010「数理解物理および物性基礎関連」)と実験的側面(小区分13020「半導体、光物性および原子物理関連」)がともに内容の例として明示され、指摘の問題は解決できると認められます。</p> |

41. 「量子エレクトロニクス」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 「量子情報関連」の小区分が設定されるべき。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付けなどを表すものではありません。原案の審査区分表に40番の回答を追加することで、量子情報関連の研究課題は適切に審査可能と認められます。 |

42. 「量子ビーム科学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分80040「量子ビーム科学関連」は、数物系の中区分では「プラズマ関係」と「素粒子関係」のみに関係づけられているが、「物性」や「ナノサイエンス」にも関係づけるべき。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 量子ビームを利用する研究は非常に多岐にわたるので、それらを網羅的に関連づけることは実際的ではありません。小区分80040「量子ビーム科学関連」は審査区分であり、内容の例として「量子ビーム応用」が示すとおり、どの分野の研究者でも応募が可能と認められます。 |

43. 「天文学およびその関連分野」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| ・キーワードの変更あるいは小区分の在り方の変更。 ・天文学中区分の変更。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 内容の例は、学術分野あるいはその区分を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。指摘のあった小区分16010「天文学関連」は中区分16「天文学およびその関連分野」と一致しており、応募者が小区分の選択にとまどうことはないと思われれます。 |

44. 「固体地球科学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 「岩石・鉱物」というキーワードの追加、あるいは小区分としての独立。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 内容の例は、学術分野あるいは領域を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。指摘の「岩石・鉱物」を小区分として独立するだけの内容の広がりには認められません。競争的環境における審査という科研費改革の趣旨に則り、原案のままとします。 |

45. 「地球惑星科学」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分「地球惑星科学総合関連」あるいは「基礎地球惑星科学関連」の追加。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 審査区分表は科研費の審査のための区分であり、応募の件数と内容の広がりに応じて設定されるものであり、学術分野あるいはその区分を示すものではありません。また、小区分の内容も、内容の例に限定するものではありません。審査区分表では、研究スタイルの如何によらず、研究テーマに応じて小区分を選択することができるようにしています。以上の観点より、指摘の小区分の追加の必要性は認められません。 |

46. 「設計工学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分18030「設計工学関連」のキーワードに、「形状モデリング」、「CAD、CAM」、「コンカレントエンジニアリング」等の追加を要望。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 内容の例は、学術分野あるいは領域を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。指摘のあった点は、いずれも中区分60「情報科学、情報工学およびその関連分野」と関連が深く、「CAD」は小区分60040「計算機システム関連」に、「CAM」は小区分18020「加工学および生産工学関連」の「コンピュータ援用技術」に、「コンカレントエンジニアリング」は小区分60090「高性能計算関連」の「並列処理」、小区分60030「統計科学関連」の「多変量解析」、小区分60100「計算科学関連」の「先進アルゴリズム」などの内容に含まれます。したがって、原案のままで適切に審査可能と認められます。 |

47. 「設計工学のシンセシス」に関して

| | |
|----------------------|--|
| <意見の概要> | |
| | 大区分Cの工学関連の中区分18「材料力学、生産工学、設計工学およびその関連分野」、中区分24「航空宇宙工学、船舶海洋工学およびその関連分野」、中区分25「社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野」等に跨る「設計工学のシンセシス」に関わる分野を独立した中区分として設置を要望。 |
| <回答> | |
| 回答: | 原案のままとする |
| 説明: | 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。原案の審査区分により適切に審査可能と認められます。 |

48. 「設計工学関連」に関して

| | |
|----------------------|--|
| <意見の概要> | |
| | 「設計工学」を一例として、学際領域の研究分野を独立した大区分として設定することを要望。 |
| <回答> | |
| 回答: | 原案のままとする |
| 説明: | 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。原案の審査区分で適切に審査可能と認められます。学際領域についても特別扱いはせず、審査が競争的に行えるよう、相互審査可能な区分(中区分、大区分)を設定しています。また、常に新しい視点の研究が応募できるように区分の設定を柔軟にしています。 |

49. 「建築学およびその関連分野」に関して

| | |
|----------------------|--|
| <意見の概要> | |
| | 中区分23「建築学およびその関連分野」は、現行の大区分Cに加えて、大区分Aにも属することを要望。 |
| <回答> | |
| 回答: | 原案のままとする |
| 説明: | 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。「建築学」は工学的側面と芸術的側面と歴史的側面を有しますが、審査区分表では両者の応募を考慮しています。すなわち、中区分23「建築学およびその関連分野」は工学領域の大区分Cに含まれていますが、芸術的側面については、小区分90010「デザイン学関連」が中区分1「思想、芸術およびその関連分野」にあり、また、同じ中区分1「思想、芸術およびその関連分野」の小区分01060「美術史関連」には関連する内容の例「建築」、「デザイン」が含まれています。したがって、応募者は適切に審査区分を選択可能と認められます。 |

50. 「建築史および意匠関連」に関して

| | |
|--|--|
| <p><意見の概要></p> <p>大区分C、中区分23「建築学およびその関連分野」に属する小区分23040「建築史および意匠関連」を、大区分A、中区分1「思想、芸術およびその関連分野」もしくは中区分3「歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野」に移動を要望。</p> | |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。「建築学」は工学的側面と芸術的側面と歴史学的側面を有しますが、審査区分表では両者の応募を考慮しています。すなわち、中区分23「建築学およびその関連分野」は工学領域の大区分Cに含まれていますが、芸術的側面については、小区分90010「デザイン学関連」が中区分1「思想、芸術およびその関連分野」にあり、また、同じ中区分1「思想、芸術およびその関連分野」の小区分01060「美術史関連」には関連する内容の例「建築」、「デザイン」が含まれています。したがって、応募者は適切に審査区分を選択可能と認められます。</p> | |

51. 「システム創成学」に関して

| | |
|---|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分「システム創成学関連」の新設を希望。(どの中区分に、とはっていない。レジリエンス工学とも関連する。)</p> | |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。中区分25「社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野」は、小区分25010「社会システム工学関連」、小区分25020「安全工学関連」、小区分25030「防災工学関連」、の3つの小区分で構成されており、そのいずれかで適切に審査可能と認められます。</p> | |

52. 「人間工学」に関して

| | |
|--|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分25020「安全工学関連」、小区分61020「ヒューマンインタフェースおよびインタラクション関連」、小区分45060「応用人類学関連」に含まれている「人間工学」を、中区分59「健康科学およびその関連分野」に小区分「人間工学関連」として分離・追加を要望。</p> | |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 「人間工学」は、健康科学にとどまらず、小区分61020「ヒューマンインタフェースおよびインタラクション関連」や小区分25020「安全工学関連」など広領域に関連があります。それらの区分において競争的環境下で適切に審査可能と認められます。</p> | |

53. 「応用人類学関連」「人間工学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| ・小区分45060「応用人類学関連」を、「応用人類学および人類動態学関連」に変更を要望。 ・小区分45060「応用人類学関連」に含まれている「人間工学」を、中区分59「健康科学およびその関連分野」に小区分「人間工学関連」として分離・追加を要望。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 「人類動態学」は応用人類学のひとつとして位置づけられるので、小区分の説明は原案のままとします。「人間工学」は、健康科学にとどまらず、小区分61020「ヒューマンインタフェースおよびインタラクション関連」や小区分25020「安全工学関連」など広領域に関連があります。それらの区分において、競争的環境下で適切に審査可能と認められます。 |

54. 「折紙工学」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分「折紙工学関連」の新設を要望。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 「折紙工学」は幾何学、群論、デザイン学、設計学等の広範囲の分野との連関を有し、それらが関係する小区分において競争的環境下で適切に審査可能と認められます。 |

55. 「原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 中区分31「原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野」は、現行の大区分Dから大区分Cへの移行を要望。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 大区分Cへ移行する特段の必然性が認められません。 |

56. 「農芸化学およびその関連分野」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分38060「応用分子細胞生物学関連」の位置は中区分38「農芸化学およびその関連分野」ではないのでは。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

57. 「植物栄養学および土壌学関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分38010「植物栄養学および土壌学関連」のキーワードに「土壌肥沃度、肥料、土壌環境」を追加。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

58. 「植物栄養学および土壌学関連」「作物生産科学関連」「ランドスケープ科学関連」「環境農学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 大括り化に賛成。但し小区分39020「作物生産科学関連」のキーワード「低コスト栽培技術」、小区分39070「ランドスケープ科学関連」のキーワード「参加型まちづくり」、小区分41050「環境農学関連」のキーワード「低炭素社会」に違和感。小区分38010「植物栄養学および土壌学関連」のキーワードに「土壌肥沃度」「肥料」を追加。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 内容の例は、学術分野あるいは領域を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。以上の観点より、原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

59. 「園芸科学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分39030「園芸科学関連」のキーワードに「果樹」を追加。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 内容の例は、学術分野あるいは領域を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。以上の観点より、原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

60. 「動物生産科学関連」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小区分42010「動物生産科学関連」のキーワードに「草地」「放牧」を追加。「行動」「アニマルセラピー」は小区分42030「動物生命科学関連」に移動。 ・「草地学」「草地土壌学」を残してほしい。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> <p>小区分42010「動物生産科学関連」の内容の例に「草地」「放牧」を追加することとします。「行動」「アニマルセラピー」については、原案のまま移動しないこととします。</p> </div> <p>説明： 意見のうち「草地」「放牧」は、小区分42010「動物生産科学関連」のなかで植物系の内容の例として必要と認められます。その他の指摘については、原案のままで適切に審査可能と認められます。</p> |

61. 「基礎獣医学」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分「基礎獣医学関連」の追加。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 内容の広がりやを考慮すると、原案のままで適切に審査可能と認められます。また、寄せられた意見(本区分の追加)は、今回の科研費制度改革の柱である「適切な審査範囲の設定」に合わず、原案のままが適切と認められます。</p> |

62. 「獣医学関連」「学習支援システム」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分の追加。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 応募件数とその内容の広がりやを考慮すると、原案のままで適切に審査可能であり、新たな区分として追加の必要性は認められません。</p> |

63. 「総合農学」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>複合農学に関する中区分の追加。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘のあった「複合農学」や「総合農学」という括り方については、原案の中区分39「生産環境農学およびその関連分野」や中区分41「社会経済農学、農業工学およびその関連分野」と独立した中区分として新設する必要性は認められません。それらの内容は原案の中区分に包含されており、今回の改革で導入される総合審査方式によって適切に審査可能と認められます。</p> |

64. 「分子生物学およびその関連分野」「多様性生物学、人類学およびその関連分野」に関して

| |
|---|
| ＜意見の概要＞ |
| 中区分43と中区分45の説明について、中区分44のように対象とするレベルを踏まえた説明としてはどうか。 |
| ＜回答＞ |
| <p>回答： 意見を採用して修正する</p> <p>（中区分43の説明「分子生物学およびその関連分野」を「分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野」に変更することとします。 中区分45の説明「多様性生物学、人類学およびその関連分野」を「個体レベルから集団レベルの生物学と人類学およびその関連分野」に変更することとします。）</p> <p>説明： 指摘のあった観点から生物学領域の中区分を整理し直し、階層性に分けて説明することとしました。</p> |

65. 「分子生物学関連」に関して

| |
|--|
| ＜意見の概要＞ |
| 分子生物学、細胞学などは業績のレベルが高いので、他と比べて不平等ではないか。 |
| ＜回答＞ |
| <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 学術の水準は分野ごとに異なり、尺度によってその高低の評価も分かれます。一方、研究者人口が学術の水準と相関を有することも事実です。科研費制度では、応募件数と内容の広がりに応じて審査区分を設定し、計画調書の内容をピアレビューにより評価することによって、審査の公正性と公平性を担保しています。また、審査の公正性が担保されるよう、審査方式の合理化および審査員の質の向上に向けての啓発のいずれにおいても最大限の努力と注意を払って不断の改善・改革を行っています。今回の科研費制度改革はその一環です。</p> |

66. 「ゲノム生物学関連」に関して

| |
|---|
| ＜意見の概要＞ |
| 小区分43050「ゲノム生物学関連」に「ゲノム動態」を追加してはどうか。 |
| ＜回答＞ |
| <p>回答： 意見を採用して修正する</p> <p>〔小区分43050「ゲノム生物学関連」の内容の例に「ゲノム動態」を追加することとします。〕</p> <p>説明： 指摘のあった内容の例「ゲノム動態」は、小区分43050「ゲノム生物学」をより良く説明するものと認められます。</p> |

67. 「生物工学」に関して

| |
|--|
| ＜意見の概要＞ |
| 「生物工学」をキーワードとして採用されたい。 |
| ＜回答＞ |
| <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘のあった「生物工学」は内容の例としては抽象的すぎると認められます。</p> |

68. 「細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>中区分44「細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野」では、応用面が強調される危険性があるので何らかの対応が必要。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘の懸念は当たらないと思われます。審査区分表は審査領域を応募件数と内容の広がりに応じて区分するものであり、例として示している内容に限定されるものではありません。また、基礎、応用といった研究の方向性を縛るものではありません。</p> |

69. 「形態および構造関連」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分44040「形態および構造関連」において、生物形態という概念はない。但し植物についての配慮は必要。キーワードに「植物形態」の追加を希望。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>（小区分44040「形態および構造関連」の内容の例「生物形態」を削除し、「動植物形態」、「微生物形態」を内容の例の筆頭に追加することとします。）</p> <p>説明： 内容の例「生物形態」というのは抽象的すぎるとの指摘に対応して、これを削除し内容の例として「動植物形態」および「微生物形態」を追加することが妥当と認められます。</p> |

70. 「時間生物学」「睡眠学」「生理心理学」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間生物学の区分追加およびキーワードの追加。 ・小区分48020「生理学関連」のキーワードとして睡眠(学)が消えている。 ・小区分44050「動物生理化学、生理学および行動学関連」のキーワードに「時間生物学」「生体リズム」「時計遺伝子」などを追加。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>（小区分44050「動物生理化学、生理学および行動学関連」の内容の例に「時間生物学」を追加することとします。）</p> <p>説明： 指摘のあった点を検討した結果、「時間生物学」については、より内容に広がりをもたせることができると認められます。一方、「生体リズム」、「時計遺伝子」については、追加の必要性は認められません。</p> |

71. 「生理学関連」「動物生理化学、生理学および行動学関連」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分48020「生理学関連」にあるキーワードの「比較生理学」は、小区分44050「動物生理化学、生理学および行動学関連」へ移す方が適切。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>〔小区分44050「動物生理化学、生理学および行動学関連」の内容の例に「比較生理学」を追加することとします。〕</p> <p>説明： 指摘のあった「比較生理学」は、現行の医学系だけではなく、小区分44050「動物生理化学、生理学および行動学関連」にも内容の例として必要と認められます。</p> |

72. 「遺伝学関連」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>遺伝学が対象とする範囲は広いとため、1つの小区分のみとすることは難しいのではないかと。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を採用して修正する</p> <p>〔小区分43010「分子生物学関連」の内容の例に「分子遺伝」を追加することとします。〕 〔小区分44010「細胞生物学関連」の内容の例に「細胞遺伝」を追加することとします。〕</p> <p>説明： 実績を踏まえて「遺伝学関連」として1つの小区分を設定していますが、「遺伝学」は、内容の例としてはほとんどの分野に入るほどに生物学全体の基盤です。したがって個々の小区分の内容の例としてすべて追加する必要は認められません。一方、できるだけ小区分の内容に広がりを持たせる観点から、個別により具体的な内容の例として「分子遺伝」と内容の例「細胞遺伝」をそれぞれ該当の小区分に追加することとします。</p> |

73. 「生物人口学」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>「生物人口学」をキーワードとして追加すべき。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘のあった「生物人口学」は、その意味の定義が難しいことから、内容の例としての追加の必要性は認められません。</p> |

74. 「神経科学」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分の再編と機械分割に備えた対応をしてはどうか。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 機械分割方式は、ある審査区分に応募件数が多い場合に、その審査区分の中で競争性を維持しつつ、ひとりの審査員が担当する課題数を適切な範囲に収めることを趣旨としています。これまでのキーワード分割よりも公正性が高まると期待されます。今後の応募や審査の動向を注視しつつ、状況の変化に応じて不断の改革を進めて参ります。</p> |

75. 「環境生理学」に関して

| |
|---------------------------------------|
| <意見の概要> |
| 小区分48020「生理学関連」の一般生理学では審査しきれない。区分の追加。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

76. 「真菌学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 真菌は分類上細菌ではないので区分を設けてはどうか。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する 〔 小区分49050「細菌学関連」の内容の例に「真菌」を追加することとします。 〕 |
| 説明： 小区分49050「細菌学関連」の内容の例に指摘のあった「真菌」を追加することにより、より広がりのある内容として示すことができると認められます。 |

77. 「免疫学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分49070「免疫学関連」をさらに細分化。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった点は、当該の小区分をさらに細分化することを要望するものですが、今回の科研費制度改革の柱である「適切な審査範囲の設定」に合わず、原案のままが適切と認められません。 |

78. 「脳科学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 臨床医学に脳科学が入っているのは奇妙である。神経科学全般で大区分を作っては。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった点は、大区分とするほどの応募件数および内容の広がり認められません。 |

79. 「疼痛学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分「疼痛学関連」の追加。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった点について、小区分を設定するほどの応募件数と内容の広がりとは認められません。小区分51030「病態神経科学関連」の内容の例として「疼痛学」を採用しており、原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

80. 「老年医学」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分52010「内科学一般関連」のキーワード「老年医学」を独立した小区分にする。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった点については、小区分を設定するほどの内容の広がりが認められません。原案の小区分52010「内科学一般関連」のなかで適切に審査可能と認められます。 |

81. 「神経内科学」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分52020「神経内科学関連」のキーワードの追加と変更。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった内容の例を追加すると、網羅的になり、寄せられた意見にある例以外の内容を排除する危険性が懸念されます。 |

82. 「胎児・新生児医学関連」に関して

| | |
|---|--|
| <意見の概要> | |
| 小区分の追加。 | |
| <回答> | |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する | |
| <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td> 小区分52050「小児成育学関連」を「胎児医学および小児成育学関連」に変更することとします。 内容の例の順番を「小児科学」「新生児医学」「胎児医学」から「胎児医学」「新生児医学」「小児科学」に変更することとします。 </td> </tr> </table> | 小区分52050「小児成育学関連」を「胎児医学および小児成育学関連」に変更することとします。 内容の例の順番を「小児科学」「新生児医学」「胎児医学」から「胎児医学」「新生児医学」「小児科学」に変更することとします。 |
| 小区分52050「小児成育学関連」を「胎児医学および小児成育学関連」に変更することとします。 内容の例の順番を「小児科学」「新生児医学」「胎児医学」から「胎児医学」「新生児医学」「小児科学」に変更することとします。 | |
| 説明： 「小児成育学関連」という小区分の説明からは、これまでの細目「胎児・新生児医学」の応募者が対応する小区分を探すことが難しいとの意見を踏まえ、応募状況を精査した結果、新たな区分を設けて分割することなく同一区分で審査することが妥当と認められます。当該の領域の応募者がより容易に区分を選択できるように小区分の説明等を変更することが妥当と認められます。 | |

83. 「内科学一般およびその関連分野」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 中区分52「内科学一般およびその関連分野」が雑多な内容である。変更を。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。また内容の例は、学術分野あるいは領域を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。 |

84. 「血液および腫瘍内科学関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 血液のがんと固形癌は病態が違うので分けるべき。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった点につきましては、病態の如何によらず、当該の審査区分において適切に審査可能と認められます。 |

85. 「臨床医学全般」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 臨床医が採択される可能性が低くなっていないか。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 科研費制度では、応募件数と内容の広がりに応じて審査区分を設定し、計画調書の内容をピアレビューにより評価することによって、審査の公正性を担保しています。原案のままで適切に審査可能と認められます。 |

86. 「災害医学」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>中区分55「恒常性維持器官の外科学およびその関連分野」の小区分55060「救急医学関連」のキーワード「災害医学」は、中区分58「社会医学、看護学およびその関連分野」の中へ小区分「災害医学関連」として移行・格上げ・新設を要望。 小区分55060「救急医学関連」の内容の例に「災害医療」を加えてはどうか。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>（ 小区分58010「医療管理学および医療系社会学関連」の内容の例に「災害医学」を追加することとします。 小区分55060「救急医学関連」の内容の例に「災害医療」を追加することとします。 ）</p> <p>説明： 耐災害、防災、減災に係る工学領域を主とする研究分野に関しては、中区分25「社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野」において、3つの小区分25010「社会システム工学関連」、小区分25020「安全工学関連」、小区分25030「防災工学関連」を設定しています。一方、「災害医学」については、社会医学における重要性に鑑み、現行の中区分55「恒常性維持器官の外科学およびその関連分野」の小区分55060「救急医学関連」の内容の例「災害医学」に加えて、中区分58「社会医学、看護学およびその関連分野」の小区分58010「医療管理学および医療系社会学関連」にも内容の例として「災害医学」を追加することが適当と認められます。また、小区分55060「救急医学関連」は、臨床研究的側面が含まれることから、内容の例として「災害医療」を追加することとします。</p> |

87. 「社会医学、看護学およびその関連分野」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>社会医学と看護学とを分離すべき。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 審査区分として、中区分では、多様で適切に審査可能な領域を一体化することで学術の水準が確保されます。原案のまま適切に審査可能と認められます。</p> |

88. 「衛生学」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>・中区分58「社会医学、看護学およびその関連分野」、小区分58020「衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む」と小区分58030「衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含まない」は実験系と非実験系の疫学を分けているのか。 ・ヒトへの介入などは、小区分58020「衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む」でよいか。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘のあった点は、その趣旨で区分を設定しています。</p> |

89. 「看護学」「社会福祉学」「栄養学」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小区分の追加(細目数5→小区分数4)は、不利になる。 ・区分の追加・変更。リハビリテーション看護学などの復活。栄養学の追加。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘の小区分数の点につきまして応募状況を精査した結果、応募件数と内容の広がり観点から、より公平・公正な競争的環境下で適切に審査可能と認められます。 また、指摘のあった「リハビリテーション看護学」、「栄養学」については、小区分59010「リハビリテーション科学関連」および小区分59040「栄養学および健康科学関連」において、適切に審査可能と認められます。</p> |

90. 「看護学」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>看護学は複合的な領域なので、複数の区分に申請できるようにして頂きたい。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 「看護学」の応募状況を精査した結果、原案のまま適切に審査可能と認められます。また、関連する他の区分に応募することは可能です。</p> |

91. 「社会医学」「看護学」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>社会医学、看護学の審査に社会科学にも通暁した審査委員が必要。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 当該の中区分58「社会医学、看護学およびその関連分野」は、医学と看護学の学問的本旨が共有される分野として適切に審査可能な範囲として設定されています。 社会医学、看護学の応募者が社会科学で審査を希望する場合には、社会科学関連の区分に自由に応募することができます。</p> |

92. 「健康科学及びその関連分野」「教育学およびその関連分野」「思想、芸術およびその関連分野」「リハビリテーション科学関連」「スポーツ科学関連」「健康教育および健康科学関連」「生理学関連」「身体教育学」「体育学」「武道学」「栄養学」「野外教育」に関して

<意見の概要>

【健康科学およびその関連分野に関すること】

- ・小区分59020「スポーツ科学関連」のキーワードが不適切で、スポーツ教育学、スポーツ心理学などが必要。区分を見直し、小区分「体育・スポーツ科学」を希望。中区分59「健康科学およびその関連分野」に栄養学を追加。
- ・小区分59030「健康教育および健康科学関連」にキーワードとして含まれる「身体教育学」は、小区分「身体教育学関連」として分離・追加を要望。
- ・中区分59「健康科学およびその関連分野」の名称変更。
- ・体育を中区分59「健康科学およびその関連分野」の説明部分に入れる。
- ・スポーツ科学は、医学関連のほか人文社会科学とも関連し、中区分を分けては。
- ・体育学は医学系だけではなく、人文学にも入れるべきではないか。
- ・スポーツ科学等の中区分スポーツ心理学等の人社系のキーワードがない。
- ・身体運動に関するキーワードが不適切。

【栄養学に関すること】

- ・栄養学の小区分を追加。
- ・栄養学を中区分の適切な位置に移動。
- ・中区分59「健康科学およびその関連分野」の小区分に栄養学・家政学を追加。

【野外教育に関すること】

- ・野外教育に関する小区分またはキーワードを体育学に追加する。

<回答>

回答： 意見を踏まえて一部を修正する

中区分59の説明及びそれに属する小区分等を次のとおり変更することとします。

中区分59の説明：スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野

小区分59010 「リハビリテーション科学関連」

リハビリテーション医学、リハビリテーション看護学、リハビリテーション医療、理学療法学、作業療法学、福祉工学、言語聴覚療法学、など

小区分59020 「スポーツ科学関連」

スポーツ生理学、スポーツ生化学、スポーツ医学、スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツ心理学、スポーツ教育学、トレーニング科学、スポーツバイオメカニクス、アダプテッドスポーツ科学、ドーピング、など

小区分59030 「体育および身体教育学関連」

発育発達、身体教育、学校体育、教育生理学、身体システム学、脳高次機能学、武道論、野外教育、など

小区分59040 「栄養学および健康科学関連」

栄養生理学、栄養生化学、栄養教育、臨床栄養、機能的食品、生活習慣病、ヘルスプロモーション、老化、など

説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。また、内容の例は、学術分野あるいは領域を示すものではなく、その小区分において審査する内容について、できるかぎり包括的、一般的な用語を用いることで少数の用語で広い内容をカバーするように設定しています。その原則のもとで、以下の理由のとおり寄せられた意見に回答します。

(小区分および中区分の構成について)

・小区分59020「スポーツ科学関連」を「体育・スポーツ科学関連」に変更するという意見です。しかし、「体育」と「スポーツ科学」とは、身体の発育発達に伴う身体教育学と競技種目を中心に競うスポーツとを一体化することには無理があり、これまでも異なる細目で適切に審査されていたことから原案のままとします。

・原案の小区分59030「健康教育および健康科学関連」は、現行細目「身体教育学」と「応用健康科学」とを一体化したものです。指摘のあった点は、現行細目「身体教育学」において応募件数の多い「体育」と現行細目「応用健康科学」において応募件数の多い「栄養学」とを、「健康科学関連」として一体化することは無理ではないかというものです。関連する応募状況を精査し検討した結果、応募の実態に即して、当該の小区分を小区分59030「体育および身体教育学関連」と小区分59040「栄養学および健康科学関連」とを独立した二つの小区分とします。

・以上、小区分の追加と再構成に基づいて、中区分59「健康科学およびその関連分野」を「スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野」に変更します。

(内容の例について)

・小区分59010「リハビリテーション科学関連」の内容の例に、3大療法(理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学)をすべて追加することとします。

・小区分59020「スポーツ科学関連」は、現行の審査においてはキーワード分割A、Bで行なわれてきました。今回の制度改革によって1つの小区分を応募件数の多寡で分割が必要な場合、より適切な審査を行うために、内容で分割することはせず、機械的に分割することとなりました。また、一体化して小区分を設定したときの内容の例が不十分であるとの意見も踏まえて、内容の例を追加します。

・新たに追加・変更となった各小区分の内容の例については、精査して追加することとします。

・なお、小区分38050「食品科学関連」や小区分08030「家政学および生活科学関連」などにも示される内容の例である「栄養学」と、ここで扱う「栄養学」はそれぞれの小区分の説明と関連して審査区分を選ぶことができます。

93. 「リハビリテーション科学関連」「作業療法学」「言語聴覚療法学」に関して

<意見の概要>

小区分59010「リハビリテーション科学関連」のキーワードに「作業療法学」「言語聴覚療法学」を追加。

<回答>

回答： 意見を踏まえて一部を修正する

〔小区分59010「リハビリテーション科学関連」の内容の例に「作業療法学」「言語聴覚療法学」を追加することとします。〕

説明： リハビリテーションにおける2療法学を追加することで、理学療法学に加えて3大療法学が揃い、バランスよく内容を説明できると認められます。

94. 「幼児や高齢者、障がい児・者の身体運動」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 障がい者などの身体運動に関する申請には、医学だけではなく人文社会、自然科学など複合的な要素が入るが、その区分がない。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった点は、障がい者などの身体運動に関する審査区分として多くの分野の複合的な要素を含めるべきとの意見と捉えられますが、そのように特定の内容(例えば障がい者の身体運動)について広領域で区分を設定することは、審査区分として狭い特定の内容(例えば障がい者の問題)に偏る恐れがあり、むしろ審査領域の範囲を狭くすることが懸念され、適切な審査の観点からその意義は認められません。 |

95. 「舞踊学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 舞踊学に配慮を。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 指摘のあった「舞踊学」は、小区分01070「芸術実践論関連」や小区分59030「体育および身体教育学関連」などに幅広く応募可能であり、原案のまま適切に審査可能と認められます。 |

96. 「統計科学関連」「医療統計学」「生物統計学」「数学」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療統計学・生物統計学の研究を応募できる小区分がないので、「統計学」の小区分の追加を希望。 ・小区分60030「統計科学関連」のキーワードに「生物統計」、「医療統計」を追加。 ・小区分12030「数学基礎および統計関連」の結果、確率論と統計数学が切り離されているのはよくない。「生物統計」「医療統計」「テスト理論」をキーワードとしてどこかの小区分に入れることを希望。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を踏まえて一部を修正する</p> <p>（小区分60030「統計科学関連」の内容の例「統計科学応用」を「応用統計学」に変更することとします。 小区分60030「統計科学関連」の内容の例「仮説検定」「統計的パターン認識」「実験計画」を削除することとします。 小区分60030「統計科学関連」の内容の例の先頭に「統計学」を追加することとします。）</p> <p>説明： 「統計学」は多くの分野の基盤であり、医療統計学と生物統計学もその範疇です。当該区分の説明をより解りやすくするために、小区分60030「統計科学関連」の原案の内容の例「統計科学応用」を「応用統計学」に変更することとします。また、内容の例「仮説検定」「統計的パターン認識」「実験計画」に関連する最近の応募数が極めて少ないことから、当該区分の内容をよりバランスよく説明できるよう削除することとします。また、当該区分の内容をバランスよく説明する観点から、内容の例の先頭に「統計学」を追加することとします。最近の確率論の研究は解析学が主流であり、統計数学関連の研究の現状を鑑みれば、上記の変更により関連の応募は適切に審査可能と認められます。また、原案の変更で応募者の選択肢はより広がるものと期待されます。</p> |

97. 「データサイエンス」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中区分「データサイエンス関連」の追加を希望。 ・大区分「データサイエンス関連」の追加も一案ではないか。 ・大区分「データサイエンス」の新設を希望。その下に中区分「データ解析」「データ設計」「応用データサイエンス」の設定を希望。もし大区分「データサイエンス」が無理なら、上の3つの中区分を大区分「情報学」の下に設定希望。 |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学術分野の分類ではありません。指摘のあった「データサイエンス」は基盤的学問のスタイルであり、対象は現行の審査区分表の中で既に多くの区分や内容の例で示されており、それらで競争的に審査可能と認められます。</p> |

98. 「ソフトウェア関連」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分60050「ソフトウェア関連」の区分名が広すぎる。名称の変更。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 小区分60050「ソフトウェア関連」は他の小区分と相補的な関係を表現できており、審査区分の説明としては適切と認められます。</p> |

99. 「ソフトコンピューティング関連」に関して

| |
|--|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分61040「ソフトコンピューティング関連」のキーワード「遺伝アルゴリズム」を、より上位概念の「進化計算」に変更を要望。</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 意見を採用して修正する</p> <p>（小区分61040「ソフトコンピューティング関連」の内容の例「遺伝アルゴリズム」を「進化計算」に変更することとします。）</p> <p>説明： 指摘のとおり、内容の例「遺伝アルゴリズム」を、より上位概念の「進化計算」に変更することが適当と認められます。</p> |

100. 「ウェブ情報学およびサービス情報学関連」「サービス学」に関して

| |
|---|
| <p><意見の概要></p> <p>小区分62020「ウェブ情報学およびサービス情報学関連」を2つの小区分「ウェブ情報学関連」と「サービス学関連」に分けることを希望。（サービスに係わる研究は必ずしも情報とは結びつかないものが多いから。）</p> |
| <p><回答></p> <p>回答： 原案のままとする</p> <p>説明： 指摘のあった小区分は、現行の細目「ウェブ情報学・サービス情報学」のA・B分割を統合したものです。今までも審査過程で特に問題は起きておらず、今回の小区分62020「ウェブ情報学およびサービス情報学関連」の内容の例を見ても、情報と結びついていないサービスの研究を排除はしていません。したがって、原案のままで適切に審査可能と認められます。</p> |

101. 「エンタテインメントおよびゲーム情報学関連」「知覚情報処理関連」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分62040「エンタテインメントおよびゲーム情報学関連」のキーワードの再考を希望。 小区分61010「知覚情報処理関連」のキーワードの再考を希望。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を踏まえて一部を修正する |
| 小区分62040「エンタテインメントおよびゲーム情報学関連」について、 ・内容の例に「体験デザイン」を追加することとします。 ・内容の例「インタラクティブアート」を削除することとします。 ・内容の例「デジタルアーカイブス」を小区分90020「図書館情報学および人文社会情報学関連」の内容の例に移行することとします。 ・内容の例「情報文化」を小区分62020「ウェブ情報学およびサービス情報学関連」の内容の例に移行することとします。 |
| 説明： 寄せられた意見を精査した結果、回答に示した内容の例の追加、削除、他の小区分への移行が妥当と認められます。 |

102. 「認知科学関連」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 小区分90030「認知科学関連」のキーワードの「脳認知科学」について、当該キーワードでは「脳認知科学」となっているが、小区分51020の説明では「認知脳科学関連」となっている。「脳認知科学」という言葉は学術用語にはないので「認知脳科学」に修正をすべき。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を採用して修正する |
| 小区分90030「認知科学関連」の内容の例「脳認知科学」を「認知脳科学」に変更することとします。 |
| 説明： 現行の細目では「脳認知科学」となっていますが、内容の例としては学術用語「認知脳科学」とすることが妥当と認められます。 |

103. 「人間医工学」に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 小区分90110「生体医工学関連」のキーワードについては、基礎的か臨床的かを明示されたい。 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 原案では、小区分の内容の例をもとに応募者が自らの研究課題にふさわしい小区分を選択するようにしています。 |

104. 「複合領域」に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| 複合領域の設置を要望。複合領域を解消したことが、問題の根源(科学教育、スポーツ科学など)にある。 |
| <回答> |
| 回答: 原案のままとする |
| 説明: 新しい審査区分表は科研費の審査区分を表すものであり、学問の系統や位置付け、学会や大学の組織構成などによるものではありません。したがって、複合的研究についても特別扱いをすることなく、審査が公平にかつ競争的に行えるよう、相互審査可能な区分(中区分、大区分)を設定しています。また、常に新しい視点の研究が応募できるように区分の設定を柔軟にしています。 |

105. 審査区分表全般に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| <ul style="list-style-type: none">・小区分は、現在の細目をベースにしているあまり変化がない。・中区分の審査は広い分野で行われるが審査員の質は大丈夫か。・複数の区分を選択できるようにしてほしい。・小区分の設定は5年ごと、10年ごとに見直すべき。・多様な学問を受け入れる区分の設定が出来るような配慮が必要。等 |
| <回答> |
| 回答: 原案のままとする |
| 説明: <ul style="list-style-type: none">・小区分の設定は学術の多様性に配慮し、適切に審査可能な区分として設定しています。・中区分の審査員については、区分の性質を踏まえて慎重に選考します。・実効性を考慮した結果、現行の複数細目に相当する複数小区分の選択は行わないこととします。・小区分の設定は学術の進展に応じて適宜見直すこととします。・新しい学問に常時対応できるよう、区分の境界は柔軟に設定しています。 |

106. 審査区分表について評価する意見等に関して

| |
|--|
| <意見の概要> |
| ・教育工学が小区分となったことを評価。 ・観光学が中区分4、7、8に表れることを評価。 ・大区分Gは必須の区分である。等 |
| <回答> |
| 回答： 原案のままとする |
| 説明： 意見は、審査区分表を評価する内容等であり、原案のままとします。 |

107. 審査区分表の構成に関して

| |
|---|
| <意見の概要> |
| 審査区分表(小区分一覧)について、応募者が、自ら応募研究課題に最も相応しい審査区分を選択する際に、該当する区分を見つけづらい。 |
| <回答> |
| 回答： 意見を採用して修正する 〔 審査区分表(総表)を審査区分表(小区分一覧)、審査区分表(中区分、大区分一覧)の前に付すこととします。〕 |
| 説明： 審査区分表の全体構成をよりわかりやすく示し、審査を希望する区分を選択しやすくするために修正することとします。 |

審査方式に係る意見の概要と回答

総合審査、2段階書面審査および審査全般について提出された意見の概要と回答については以下のとおり。

1. 「総合審査について」に寄せられた意見の概要と回答

(審査委員の選考に関する意見の概要)

<審査委員の選考について>

- ・大区分の審査委員は各中区分から異なる審査委員が選出されることや中区分の審査委員は異なる小区分から審査委員が選出されることなど、審査委員の選出方法のルールをつくることを希望。

(回答)

- 審査委員の選考に当たっての審査委員の人数は当該区分の審査が適切に行えるよう設定します。審査委員は中区分や小区分の「代表」ではなく、当該区分に対する応募課題を研究計画調書に基づいて評価することが求められます。したがって、このような立場から総合的に当該区分の審査ができる者を選考します。

(審査委員、審査負担および審査方法に関する意見の概要)

<審査委員の資質について>

- ・「総合的に」「幅広く」と言えば聞こえが良いが、実際には適正に審査できるかは疑問。
- ・審査委員が真に、その領域を理解、高所からの判断をしているのか、疑わしい。
- ・大きな課題について、慎重に審査するのは良い。ただ、専門性が落ちるのではないかという懸念は当たっていると思う。
- ・各審査区分においては、人文社会系と理数系の審査委員が総合審査を行うことが望ましい。
- ・単に研究者として一流（に見える）程度では基準とならない。学問的見識、人格ともに優れた選ばれた人（学士院会員等）が審査すべきではないか。
- ・専門外の委員の評価能力は低いいため、研究計画の内容よりもアピール力が基準となる恐れがある。
- ・審査委員全員の合議審査の形をとるとなっているが、どのようなことが総合審査の審査基準になるのかについては、多角的なレビューはするとは書かれているが、専門性についての議論がしっかり評価されるのか、疑問。
- ・広い視野を持った適切な人材を配置すべき。
- ・審査委員について、限られた人数の中でもできるだけ多様性を持たせるようにする必要。
- ・中区分で審査が行われる場合、広い区分をきちんと精査できる審査委員はいるのか。

<審査負担について>

- ・精度の高い審査を行うためには、従前の審査時間よりも多くの時間を必要とする。審査委員1人当たりの負担を軽減するためには、より多くの審査委員の採用が必要。
- ・審査委員も専門から遠い分野の審査を行わなければならないので負担が大きい。
- ・当該分野に明るくない審査委員がどの申請が優れているかを判断できる基準をいかに作るかが重要。この点があはつきりしなければ、審査委員の負担が増えるにもかかわらず適切な判断ができない。

<審査方法について>

- ・審査委員を変えず、書面と合議を実施するのは効率が良いとはいえ、本当に多角的な審査になるのか疑問。
- ・広い領域において重要で一般性の高い研究が推進可能となる一方で、研究の多様性確保という観点からは、助成対象が特定の分野に偏らないように配慮する必要がある。

(回答)

- 科研費の審査は、学術コミュニティの協力なくしてはできないと認識しています。審査委員は専門分野の代表ではなく、担当区分全体の応募の中から研究計画調書に基づいて優れた研究課題を選ぶ役割があります。また、応募者は研究計画調書の作成に際して、自ら設定した研究計画課題の学術的背景や国内外での位置づけなど、専門分野を越えて応募区分の審査委員に研究内容が理解されやすい記述を心掛ける必要があります(調書に何を求めるかは後述)。このように、科研費の審査は学術コミュニティが育んでいくものと認識しています。
- 審査委員の育成は重要な課題であり、審査の重要性と上記の趣旨を十分に理解して審査を行ってもらえるよう、新たな審査方式に関する実施マニュアルを事前に具体的に審査委員に呈示するなど、日本学術振興会として審査の質の向上に努めます。
- 「総合審査方式」は、書面審査を行った審査委員がその審査結果に基づいて合議審査を行ない、採否を決定するものです。今回の改革においては、基盤研究(A)において、適切な審査範囲として65の中区分を設定し、競争的な審査を行うこととしました。改革前の基盤研究(A)の審査では、321の細目ごとの第一段書面審査に基づき、書面審査委員とは異なる委員による分科程度の区分での第二段合議審査で採否を決定していました。この方式では、第二段合議審査において個々の研究計画調書を精査する時間的余裕はなく、もっぱら第一段書面審査の評点集計結果に基づいて採否決定が行われるので、分野を超えた審査視点が不十分ではないかとの指摘が文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会からありました。そこで、今回の改革においては、基盤研究(A)の審査は65の中区分で行うこととし、さらに総合審査方式を採用することにより、より競争的な環境でより公正かつ公平に優れた研究課題を選び出すこととしています。

○総合審査方式は、国内外で既に研究費の審査方式として採用されてきており、長所短所について様々に検討されています。学術研究の挑戦性を重視する考え方に立てば、細分化された分野で審査されるよりは、応募課題の設定に自由度が増大する点で応募者にとってメリットがあります。一方、これまでの細分化された審査区分に関しては、審査委員が応募者の専門的知識の上で書かれた調書に対して専門的見地からの評価が得られるとの期待や、他の分野との競争を意識することなく評価されるとの期待から、これを望む声が聞かれます。これらの意見を総合的に検討するとともに、特設分野研究の審査で総合審査方式を実施し、検証した結果を踏まえ、最終的に今回の審査方式の改革の柱として「総合審査方式」を中区分、大区分の審査に導入することにしました。

○寄せられた意見は、総合審査方式とこれまでの方式との違いから来る審査委員あるいは応募者としての戸惑いを率直に表したものとして受け止めています。総合審査方式での科研費の応募と審査については、今後十分に周知していく予定ですが、主要な点を以下にまとめます。

- ・応募者には、自ら設定した研究課題の「背景や経緯、国内外での位置づけ、新規性、独自性および創造性などが解るように記述する」ことを求めます。研究計画の学術的内容を具体的に記述することによって、審査委員が研究計画調書に沿った審査が可能となることを調書作成マニュアル等の作成を通じて行ないます。
- ・審査委員には、「応募者の研究計画調書に沿って審査する」ことを求めます。合議の段階では、審査課題の専門分野に近い審査委員の意見と他分野から見た場合の意見を交換することができるので、専門性を十分確保しながらより広い観点による審査が可能になると期待しています。一方、他分野を跨ぐ様な大きな新規性という点では、総合審査方式によって高い観点から具体的な審査ができるので、応募者の発想の自由度は高くなるものと期待されます。

2. 「2段階書面審査について」に提出された意見の概要と回答

(審査委員に関する意見の概要)

<審査委員の資質について>

- ・審査委員を多数輩出できる有力大学の教員や権力のある学会ボスがいるような学会員ばかりになってしまうのではないかと危惧。
- ・審査委員の当事者意識が低い。
- ・審査委員の好みや申請された研究内容に対する理解度によって審査結果が変わる恐れがある。

<審査委員の選考について>

- ・小区分でのキーワードの多様性を考慮すると、1課題当たりの審査委員数でカバーできるのか。
- ・専門分野の偏りのない審査委員により適正に審査することを期待。

<審査委員の人数について>

- ・審査委員の負担も大きくなることから現行よりも審査委員の数を増やす必要があるのではないか。
- ・一人、二人の審査委員の特異な見解が採否を分けることがある。公正性の観点から、1課題あたりの審査委員を増加すべき。

<審査負担について>

- ・審査委員の数を増やし、一人当たりの審査数を10件に減らすべき。
- ・2段階目で議論の対象とする申請は、真にボーダーライン付近のものに限るようにして、審査の負担が過大にならないようにしてほしい。一方で、ボーダーの線引きが難しいのではないかと意見もある。
- ・審査の手続きが重複化し、審査委員の負担が増えることを懸念。

(回答)

○科研費の審査は、学術コミュニティの協力なくしてはできないと認識しています。審査委員は専門分野の代表ではなく、担当区分全体の応募の中から研究計画調書に基づいて優れた研究課題を選ぶ役割があります。また、応募者は研究計画調書の作成に際して、自ら設定した研究計画課題の学術的背景や国内外での位置づけなど、専門分野を超えて応募区分の審査委員に研究内容が理解されやすい記述を心掛ける必要があります。このように、審査は学術コミュニティが育てていくものと認識しています。その中で、審査委員の育成は特に重要なので、審査の重要性と上記の趣旨を理解して審査を行ってもらえるよう周知に努めるなど不断の努力を継続します。

○1 課題あたりの審査委員数は、現行の基盤研究（C）、基盤研究（B）等の審査委員数である4名から6名を想定しています。一方、審査委員1人当たりの審査件数を減らすなどの審査負担の軽減は重要な課題であると認識しており、その取組を進めます。

なお、現行の審査において、応募件数が多い審査区分（細目）では、複数の審査グループを設け、応募研究課題をキーワードで振り分けるキーワード分割を行い、審査委員一人当たりの審査負担の軽減を図ってきました。今回導入する審査においては、応募件数が多い審査区分（小区分）では、複数の審査グループを設け、より公正かつ公平な審査の観点から応募研究課題を無作為に振り分ける機械分割を行い審査委員一人当たりの審査負担の軽減を図ります。

また、今回導入する2段階書面審査の2段階目の審査においては、1段階目の審査結果に基づきボーダーライン付近となった研究課題のみを審査対象とします。

（審査基準、審査方法に関する意見の概要）

<審査基準について>

- ・ 現行では釣鐘型の評点分布を課されている以上、質の低い申請に対しても中程度の評点を付けざるを得ない場合も多い。一様分布に近い評点分布（5段階で20%）とすべき。

<審査方法について>

- ・ 1人の審査委員の低い点数が平均点に及ぼす影響は大きい。このようなことを防ぐため、不適任な審査委員を指定したり、複数の審査委員の点数の中で最も低い点は外したりすべき。（また、最高点および最低点を除いた点数で評価すべきとの意見。）
- ・ 2段階目の書面審査結果の合意形成の手続きは明確にしておく必要がある。
- ・ 最終決定の権限はどこにあるのか。

（回答）

- 評点を付す際の評点分布についてはこれまでに蓄積されてきた審査経験を踏まえ適切に設定します。
- 2段階書面審査においては、2段階目の審査対象とする研究課題の範囲を設定するにあたって、極端に低い点数や、高い点数が付された課題について考慮することを検討します。
- ボーダーライン付近の課題の採否の決定は、2段階目の審査評点によって機械的に行うこととしますが、その結果を確認する委員会を設置することを検討しています。

3. その他の意見の概要と回答

<審査結果の開示について>

- ・改善点（審査コメント）をフィードバックし研究計画の見直しをサポートという総合審査の変更点を、2段階書面審査でも行うべき。
- ・若い研究者に対し、どうしたらその方向性が開かれるのかといったコメントが添えられる配慮があるべき。
- ・もう少し具体的なコメントがあると次の改善に繋がる。

<審査意見について>

- ・重要な審査項目について、1行でもよいので具体的なコメントがないと2段階目で評価の変更がしづらいのではないか。

<その他>

- ・複数の小区分に属する研究の場合には、複数での小区分にて審査ができる体制の検討が必要。
- ・海外のグラント審査に関わったことがあるが、書面審査後に他の審査委員のコメントを全て読むことが出来たのが良かった。

(回答)

- 審査コメントの開示（応募者へのフィードバック）は科研費制度における重要な要素の一つと認識しています。

総合審査においては、合議審査終了後、合議審査対象課題のうち不採択になったものには、審査コメントを開示する予定です。一方、2段階書面審査の審査コメント開示については、審査負担、事務負担を考慮して現実的方法を検討します。

- 総合審査、2段階書面審査ともに1段階目の審査では、2段階目の審査に資するようコメントを記入してもらいます。
- 応募者が複数の小区分を選択できる仕組みについては、小区分において適切な審査範囲の設定をしていること、また、関連するテーマの応募も受け付けることとして、一旦、廃止する方向で検討しています。